

令和8年度 展覧会事業計画

[特色] 堀内誠一展のように全国的な視野をもつ絵本作家やファミリー文学館により幅広い層を対象とした展示を行うとともに、北海道の作家にも目を向け、岩田道夫展を開催。「見る」「読む」を組み合わせ、バラエティーに富んだ構成とする。

※ 開催時期及び展示内容は、変更になる場合があります。

事業項目		事業概要		目標観覧者数	特記事項
展覧会事業	常設展	事業名 (開催時期)	北海道の文学 (通 年)	6,800	・展示室の一角の文学館アーカイブコーナーでは、年4回程度テーマを設定して展示替えを行い、収蔵資料をさまざまな角度で紹介する。
		[趣旨] 明治以降の北海道ゆかりの文学者や作品を、直筆原稿や書画、色紙・短冊、稀覯本など貴重資料を中心に精選し、分野別に網羅的に紹介。 [構成] 北海道の小説・評論、アイヌ民族の文学、詩、短歌・俳句・川柳等短詩型、児童文学など。平成以降の展示を中心に、さらに充実を図る。			
	特別展	事業名 (開催時期)	「堀内誠一 子どもの世界」 (7～9月)	5,400	・関連普及事業（講演会、セミナー等）を期間中に開催する。
		[趣旨・内容] 堀内誠一（1932～1987年、東京出身）は『ぐるんぱのようちえん』『たろうのおでかけ』など、人気作を数多く世に残した絵本作家です。1950年代後半にデビューした堀内は、生涯約80冊の絵本、そして約70冊にのぼる挿絵本を手がけ、子どもが自分の意志を持って活躍する物語をいきいきと鮮やかに描き出しました。本展では堀内の作品における、子どもをめぐる物語に着目します。子どもたちが輝き、努力し、空想し、冒険する、「堀内誠一 子どもの世界」を紹介。 本展では、北海道とのゆかりを紹介するコーナーも併設する。			
	特別展	事業名 (開催時期)	「岩田道夫のワンダーランド」 (12～3月)	3,000	・関連普及事業（講演会、セミナー、朗読会等）を期間中に開催する。
		[趣旨・内容] 1956年、網走に生れた岩田道夫は、詩、童話、絵画、絵地図、音楽など多方面に稀有な才能を発揮。1992年には日本児童文芸家協会新人賞を受賞し、佐藤さとるに「一個の純粋な精神から、あふれてこぼれた言葉のしずくのような作品」と激賞されました。しかしその後、他者からの評価への意識を退けるため発表を固辞。2014年に没するまで、自身がほんとうに読んでみたい作品だけを書く（描く）ことに集中した。 このたびは、作品を託された村田和子氏のご協力により、その妥協なき制作態度から生み出された澄んだポエジーに光をあてる。			
教育普及事業展示		事業名 (開催時期)	ファミリー文学館 「おいしい！美味しい！！文学Ⅱ」 (4～6月)	3,600	・教育普及事業「ファミリー文学館」として実施。家族向け展示と体験型のワークショップを開催する。 観覧料は無料とする。
		[趣旨・内容] 「“おいしいもの”は大人も子どもも、みんな大好き。もちろん文学者の方々も」で始まった前回の展覧会から6年ぶりの開催。 小説・エッセイ・詩・短歌・俳句・川柳・児童文学・絵本に描かれた“おいしいもの”。どんな文章や表現で味わうことができるのでしょうか。文学の中の“おいしい”をぜひ味わっていただく。 会場で読める絵本コーナーも設置する。			